

会 議 録

会議の名称	第 4 回 子どもが輝く学校の未来構想検討委員会
開催日時	令和 7 年 3 月 2 4 日（月）
	1 3 時 0 0 分 開会 1 4 時 4 0 分 閉会
開催場所	斑鳩町役場 3 階 第 1 会議室
議長等の氏名	委員長 安井 義和
	副委員長 森下 暁
出席者（委員） の氏名	田中 和則、吉川 健、井上 卓也、富井 孝則、清水 俊匡、 小村 尚己、橋口 里子、坂本 恵美、浦林 潔、久保 茂樹、 岡方 良一、下村 知子
欠席者（委員） の氏名	遠山 健
事務局職員 職・氏名	山本 雅章（教育委員会 教育長） 本庄 徳光（教育委員会事務局 教育次長） 仲村 佳真（教育委員会事務局総務課 課長） 藤村 保夫（教育委員会事務局総務課 学校教育指導主事） 下平 愛 （教育委員会事務局総務課 主事）
議題	・ 審議事項 （１）小・中学校の防災・防犯に向けた取組について【資料 9】 （２）神奈川県小田原市における学校施設の木質化の事例紹介及び 近年の学校施設の改修例について【資料 1 0】 （３）斑鳩町の教育の考え方について【資料 1 1】 （４）小・中学校の適正規模・適正配置の基本方針について 【資料 4、資料 7】 （５）今後のスケジュールについて
会議結果	・ 審議事項 （１）、（２）、（３）、（５）について、事務局から説明 （４）について、委員会での協議の結果を受け、正副委員長にお いて、答申案を作成し、次回の委員会において、審議するこ ととなった。
会議資料	・ 次第 ・ 資料 4 町立学校施設における教育環境の基礎調査の結果につい

	て ・資料 7 未来の斑鳩町立小・中学校のあり方に関するアンケート調査の結果について ・資料 9 令和 6 年能登半島地震における学校施設整備と教育再開の取組と課題 ・資料 10 神奈川県小田原市における学校施設の木質化の事例紹介、近年の学校施設の改修例について ・資料 11 令和 6 年度教育行政基本方針（斑鳩町教育委員会）
議事の経過	
発言者	発言の要旨
事務局	（検討委員会の成立について） 総委員数 15 名のうち、14 名の委員が出席のため、斑鳩町子どもが輝く学校の未来構想検討委員会設置条例第 6 条第 2 項により当該検討委員会が成立します。 （資料確認（次第、資料 4、資料 7、資料 9、資料 10、資料 11））
安井委員長	（会議録署名委員として、橋口委員、坂本委員を指名） 1. 審議事項 （1）小・中学校の防災・防犯に向けた取組について、事務局より、説明をお願いします。
事務局	（資料 9 に基づき説明）
安井委員長	説明ありがとうございました。本日は、資料 4 と資料 7 も扱いますので、お手元にご準備いただけたらと思います。 資料 7 の 41 ページに、児童・生徒の居場所は当然ですが、地域防災の拠点としての回答数も多いことから、議論していく必要があると思います。ご質問等ありますでしょうか。 （質問なし） それでは、審議事項（2）に移りたいと思います。

事務局	(資料 10 に基づき説明)
安井委員長	ありがとうございます。今まで、あまり実際の写真等を見ていなかったこともあるため、このような資料を見ながら木質化の事例や木質化のメリット・デメリット、メンテナンスの問題などを認識しながら、今後の話を進めたいと思います。 また、学校施設における木材利用の意義と効果のうち、「地域の風土」、「文化への調和」という部分は、特に斑鳩町として念頭に置いておくべきところと考えます。 それでは、何かご質問はありますでしょうか。 (質問なし) それでは、審議事項(3)に移りたいと思います。 適正規模・適正配置に関して考える際に、斑鳩町がどのような教育を目指していくのかということが重要になります。 教育方針は本委員会で議論する内容ではありませんが、その内容を踏まえるために、斑鳩町の考え方、公表されている資料を事務局より説明いただきたいと思います。
事務局	(資料 11 に基づき説明)
安井委員長	斑鳩町の教育方針は、ご自宅に帰られた際に改めて、ぜひご一読いただければと思います。 非常に重要な方針ですので、頭に入れておいていただけるとありがたいです。何かコメントはありますでしょうか。 私個人としては、この方針は非常に重要だと思っています。 多くの教育委員会でどうかはわかりませんが、1 ページの下から 8 行目にある『子どもが「行きたい学校」、保護者が「行かせたい学校」、教職員が「働きたい学校」を目指す』という部分は、キャッチコピーにできそうな良い表現だと思います。 特に『子どもが「行きたい学校』』という点を、委員として常に頭に置いておきたいと思います。 大人が言うより、子ども自身が行きたいと思える学校にすることが大切だと思います。

もう1つ、2ページ目をご覧ください。斑鳩町の教育理念の3番目に『歴史的・文化的遺産の保全や継承に努める』とあります。幸いなことに、斑鳩町には多くの歴史的文化的遺産がありますので、これを学校教育や学校の建物にどう生かしていくかが重要だと思います。

それでは、審議事項（4）に移りたいと思います。

前回のアンケート結果は、皆さんのお手元の資料7にありますので、既に目を通していただいているかと思います。

ただし、適正規模や適正配置を考える際には、もう少し深く読んでおかないとアンケートの意味が薄れてしまうと思います。

これから議論を進めるにあたり、2つの方法があるかと思います。皆さんの考えやコメントをいただく際に、全体を通して思いついたことを自由に言っていただく方法と、項目を区切って議論する方法です。

例えば、最初に規模について議論し、その次に配置について考えるというような形で進める方法です。

その後、全体的な内容について意見をいただくという方法もありますが、どちらがよろしいでしょうか。

項目を区切って議論し、その後に全体的な意見をいただく方法でよろしいでしょうか。

まずはこの方法で進めてみたいと思います。

それでは、規模についてですが、規模とは1学級当たりの人数と1学年当たりのクラス数を指します。

これを「規模」と簡単に表現します。

次に配置、そして役割について議論したいと思います。

資料7と資料4を並行してご覧ください。

資料7の6ページをご覧ください。

まず、小学校の1学級あたりの児童数に関しては「現状より少ない方がよい」と答えたのが43%、「現状のままでよい」が56%です。

このパーセンテージは、保護者や地域の方々の回答も含めたものです。

3小学校の保護者に限っていえば、「現状のままでよい」と答えた

	割合は、学校ごとに異なります。 例えば、斑鳩小学校では50%、斑鳩西小学校では69%、斑鳩東小学校では66%です。 斑鳩小学校の50%という数値は、他の2つの小学校と異なるため、原因を分析しました。 そこで、資料4の5ページと8ページをご覧ください。 斑鳩小学校の令和6年度の総生徒数は650名で、1年から6年までのクラス数は、23クラスです。 単純計算すると、1クラス当たりの人数は28.2人です。一方、西小学校は26.1人、東小学校は26.3人となり、斑鳩小学校とは約2人の違いがあります。 さらに、斑鳩小学校の3年生は、103名で、クラス数は3クラスです。 計算すると、1クラス当たりの人数は34人となります。 これは、国の方針である35人以下には収まっていますが、西小学校と東小学校と比べると多い状況です。 これが大きな原因ではないかと考えております。 さらに、1学年あたりの望ましい学級数についてですが、資料7の9ページをご覧ください。 これを見ると、1学年あたり2、3学級が望ましいと答えた方が81%、4学級以上を望む方が18%となっています。 4学級以上を望む理由としては、クラスの人数を減らしてほしいという声がクラス数を増やしてほしいという意見になった可能性があります。 また、斑鳩小学校では全学年すべてが4クラスというわけではなく、3年生のみ3クラスです。 このため、3年生の保護者からは学級の人数を減らしてほしいという声が出ているとも推測されます。 このように、規模としては、アンケート全回答者の81%が1学年あたり2、3学級を望んでいますが、前提として、1クラスあたりの人数が33、4名などの状況を考慮する必要があります。 説明が不十分かもしれませんが、何かご質問があればお知らせください。
--	---

森下副委員長	安井委員長がおっしゃっているのは、小学校の1学級あたりの希望児童数について、56%が現状のままでよいと答え、43%が現状より少ない方がよいと答えたことについて、斑鳩小学校の児童数の状況が影響しているのではないかとということで、斑鳩小学校の3年生1クラスあたりの人数が34名であることにより、現状より少ない方がよいを選択することとなり、その結果、統計的に見て全体の現状より少ない方がよいという回答率を引き上げているという考え方でしょうか。
安井委員長	その通りです。
A委員	このアンケートについて、委託業者さんが、データを作成されていると思いますが、今の委員長のご指摘について、アンケートの取り方の中で、斑鳩小学校の3年生のデータが出ているというのは、委託業者さんの方で追跡調査が可能でしょうか。 今の分析は、数字からグループ分析として理屈は通りますが、それが本当にそうなのかは数字の見方によって変わると思います。 実際に小学校3年生の傾向がどうなのかを確認する必要があります。
委託業者増田	データはありますが、まだ細分化した分析ができていない状況となっております。
A委員	委託業者さんが持っているアンケートの結果を基に、実績ベースで分析の方がより正確なデータが得られるかもしれません。 そのため、仮説に基づく推測ではなく、委託業者さんが持っている実績データを活用して、具体的な傾向を確認した方がよいと考えます。
委託業者増田	今回の議論の中で、新たなクロス集計のデータが必要ということですので、次回の検討委員会までに、ご提出するように致します。 他に課題を解決する資料として必要なものがあれば、ご提示致します。

安井委員長	私の場合は、資料を受け取った段階で、各学年の人数を計算し直して、その結果をもとに推定したものになります。 例えば1、2年生は30名を超えてはいけないという規定があるため、30名を超えた場合にはクラスを増やさなければならず、結果として各クラス的人数が減ることになります。 しかし、3年生は34名となっており、規定の影響を受けていることがわかります。 この状況を踏まえ、3年生のクラス数や人数が他の学年と比べて大きく異なることが、アンケート結果に影響を与えている可能性があるということと考えてみました。
事務局	あくまで推測の域になりますが、斑鳩町では小学校1年生と2年生については30人学級編制を行っていますが、小学校3年生からは35人学級編制となり、国や県の基準に沿っています。 そのため、3年生になるとクラス的人数が増えることがあり、これがアンケート結果にも影響している可能性があります。 3年生になると35人学級と増えるため、この変化が保護者の意識に影響を与え、アンケート結果にも反映されているのではないかと考えられます。
安井委員長	約20年前に行われた文部科学省の調査によると、子どもたちは少人数を好まないという結果が出ています。 一方で、校長職の方々の95%、一般の先生方の80%が少人数を好むと答えています。 小中学生は20～30%程度しか少人数を好まないという結果です。 心理学的には、少人数だと子どもにとって逃げ場がないという考え方もあります。 例えば、3人のグループで意見が合わない場合、少人数だと居心地が悪くなることがありますが、大人数だと他の意見を持つ人がいるため、自然に安心感が生まれます。したがって、大人が考える少人数が必ずしも良いとは限らないのです。 斑鳩町では、1年生と2年生は30人以下、3年生から中学3年

A委員	生までは35人を上限としています。 規模についてはこれでよろしいでしょうか。 次に配置についてですが、資料7の18ページをご覧ください。 小学校の配置について、現状の小学校までの通学時間では30分未満の通学時間が88%となっています。 19ページには、保護者や町民、先生方全体の許容範囲として30分未満が81%と記載されています。 これに基づき、現状の配置で大きな問題はないと考えられます。 皆さんのコメントやご意見をお聞かせください。 (意見なし) 次に役割についてですが、資料7の41ページをご覧ください。 小中学校共通の質問として、児童生徒の放課後の居場所や活動場所が78%と圧倒的に多く、次に地域防災の拠点が53%、スポーツ活動の拠点が45%となっています。これらの点を考慮しながら進めていく必要があります。 ここまでの説明で、小学校としての規模、配置、役割について説明をさせていただきましたが、小学校関係者の方々、何かコメント等ありますでしょうか。保護者の視点からのご意見をお聞かせください。 この規模についての議論の中で、アンケートにはないのですが、以前もお話したように、クラスの人数が多くても加配で先生を増やして柔軟に対応しているという認識があります。 例えば、1クラスあたりの人数が多くても、いじめの案件があるクラスには先生が追加で入ってくれる時期があるなど、支援が必要な子がいるクラスには先生が目配せしてくれるなど、柔軟な対応がされています。 こうした対応があることで、クラスの人数が多くても1人1人の生徒に目を向けてもらえる方が良いという意見もあります。 アンケート結果を見ると、クラスの人数が少ない方が良いという意見が多いですが、実際には柔軟な対応が取られている方が教育体制として良いのではないかと思います。 国や県からの教員配置についてですが、児童数に応じて教員数が
-----	---

事務局	決まるのか、クラス数に応じて教員数が決まるのかについて教えてください。 教員の配置は国の学級編成基準に基づいて行われます。 さらに、県独自の少人数加配制度もあり、大規模校、児童数が600人超の場合には追加で教員が配置されることがあります。 また、平均児童数に応じた加配も県の制度として存在します。 ただし、教員の数に余裕があるかどうかによって、必ずしも追加の教員が配置されるわけではありません。 斑鳩町では、小学校1、2年生は30人学級、中学校は、国の基準が40人学級となっていますが、町独自の基準で35人学級としています。 少人数学級編成や、先生を2人つける形での少人数指導、いわゆるティーム・ティーチングも行われています。 これらは校長先生の判断で実施できるようになっています。
安井委員長	斑鳩町は、フレキシブルな対応ができると考えていいですね。
B委員	中学校の場合について、現状より少ない方がよいという回答が37%であり、少人数を希望しているのは、斑鳩南中学校の1年生のことだと思います。 斑鳩町では、国よりも先に町費で少人数学級を実施しており、丁寧に対応していると思います。 また、特定のサポートや登校支援なども実施していると思います。 そのほかに、先生方の働き方も多様化しており、2時間目から来る先生やフレックス勤務など、国が認めた制度を活用し、こうした情報を共有しながら、生徒を大切にしています。 現状を考えると、一長一短に、人数の多い少ないだけで語るのは難しく、例えば、41人のクラスがあった場合、21人と20人に分けると、逃げ場がなくなることもあります。 また、グループ学習やコミュニケーションの機会が減るという弊害が出ることも予想されます。 多くの生徒に対し丁寧に対応できている今の体制は、大きなメリ

山本教育長	ットだと考えています。 令和6年度の斑鳩南中学校の1年生の状況について、国の基準である40人学級ではなく、斑鳩町の35人学級を採用しております。 また、町からの加配に加えて県からも加配がついています。 例えば、斑鳩南中学校では2名の教員を加配する際には、県からの教員が1名であったため、町からもう1名の教員を追加して対応しました。 特に高校進学を見据えた3年生の英語力強化のために、英語教師を1名追加で配置するなどの取り組みを行っています。 また、1年生については、学級増ではなく教師の増員で対応しています。 例えば、クラス内で支援が必要な生徒がいる場合には、教師が2人入って対応することで、35人学級を2人で分担して授業を行うことができます。 こうした柔軟な対応が求められる時代になっており、両方の取り組みが大切だと感じています。
C委員	小学校の学級編成についてですが、例えば100名の子どもたちを3クラスに分けると1クラスあたり33人になります。 しかし、4クラスに分けると1クラスあたり25人になります。 A委員がおっしゃったように、3クラスの場合は先生が3人必要ですが、4クラスに分けると先生が4人必要になります。 4人目の先生をフリーで動かせる余裕が減るため、先生にゆとりができて、間接的に子どもたちへの指導に影響することがあります。 どちらが良いかは本当に迷うところですが、配置された教員数や学年の子どもたちの状態によって判断しています。 保護者の皆様には見えないかもしれませんが、基本的には児童の人数に対して県や国から教員の数が配置されます。 ただし、特別支援の子どもたちの数は加味されていません。 そのため、特別支援の子どもたちが多い学年では、見た目上は、クラスの人数が多くなりますが、実際には支援が必要な子どもたちがいるため、教員数が不足しているように見えるなど、この点につ

	いて保護者の方々にご理解いただく必要があります。
安井委員長	単純にクラスの人数だけで議論するのではなく、学年ごとの子どもの状況や必要な支援を考慮しながら、ワンパターンではなく、柔軟に対応していくことが求められます。 私たちはあくまで学校の適正規模、配置という観点を持つことが大切であり、2、3学級でよいのではという意見は、このアンケートから出てきたものになりますが、クラスの人数は本当に本質的な問題と考えます。
B 委員	斑鳩南中学校の1年生も調査していただきたいと思います。
安井委員長	それでは中学校について話をしたいと思います。 資料7の12ページをご覧ください。 現状の1クラス当たりの生徒数について、「現状のままでよい」が61%、「現状より少ない方がよい」が37%となっています。 大体6対4の割合です。 斑鳩中学校の保護者は、「現状のままでよい」が64%、「現状より少ない方がよい」が35%、斑鳩南中学校の保護者は「現状のままでよい」が54%、「現状より少ない方がよい」が46%となります。 ここで、斑鳩南中学校の保護者は、約半数近くの方が「現状より少ない方がよい」となっていますので、南中学校の状況を少し深く見てみます。 資料4の7ページに記載されているように、1年生は123名で、クラス数は3クラスです。 1クラスあたり41名となり、これが保護者のアンケート結果に影響を与えている可能性とも考えられるかと。 1年生の保護者の方は、自分の子どものクラスの人数が多いと感じてアンケートに答えているかもしれません。 また、斑鳩南中学校の1年生の1クラスは、41名ですが、他の学年、例えば2年生や3年生は30から35名の間に収まっています。

	このため、現状より少ない方が良いという意見が出ているのかもしれない。 1 学年当たりの望ましい学級数については、資料 7 の 15 ページをご覧ください。 「1 学年あたり 2、3 学級」が 50%、「1 学年あたり 4 学級以上」が 49%と、ほぼ 1 対 1 の割合で分かれています。 これは、現在の 1 クラス内の生徒数が多いため、クラス数を増やしてほしいという意見が反映されている可能性もあり得るか。 中学校の配置については、資料 7 の 20 ページと 21 ページをご覧ください。 現状では中学校の保護者は、「30 分未満の通学時間」が 87%、通学時間の許容範囲として「45 分未満」が全回答者の 93%となっています。 これに基づき、大きな統合や新たな学校の設置は必要ないと考えられるかと。 役割については、小中合同でアンケートを実施し、総括的に考えています。国が小学校 6 年生まで 35 人学級を基準として教員を配置する方針を進めているため、今後は国の基準が斑鳩町に追いついてくることが期待されます。
B 委員	国が小学校 6 年生まで 35 人学級で教員を配置する方針を進めているなか、中学校の定員については、順次減らす方向で動いていくと思います。 これにより、国の基準が斑鳩町に追いついてくると思います。
安井委員長	確かにそういう声は出てきています。あとは、実現するためには財政面が大きく関係してくると思います。 ここまで、小学校、中学校を中心に議論しましたが、幼稚園、保育園の関係者の方々から何かご意見ありますでしょうか。
D 委員	町立幼稚園においては、現状、人数は少ないと思います。 保育園や私立との接点がないので、どういう状況なのかはわかりませんが、少人数だからこそみんな仲が良いです。そのまま小学校

安井委員長	に上がってくれたらいいなと思っていました。 ただ、今日先生方のお話を聞いて、それだけではないと感じました。 人数が多くなると、その分コミュニケーション能力が必要になり、少人数だと甘やかされて育ち、危機管理能力が低くなるのではないかと思います。 そういう意味では、人数が多い方が良いのかもしれません。 これに関しては、1クラス内の児童生徒数は「少ない方」と「多い方」にはそれぞれにメリット・デメリットがあり、絶対的な正解がないのだろうと思います。子どもの状況を見てどうなるか、大変気を遣われると思い、一般の保護者としての気持ちもよく分かります。
E 委員	令和6年度にアンケートを実施していますが、実際にこの学校をどうするかというのは、どの程度先を見通すべきか教えて欲しいと思います。 また、将来、人数も学級も減ると予想される中で、統合などの話もするべきか、教えて欲しいと思います。
安井委員長	当検討委員会で、学校の統合を行うべきか、このまま現状の小学校3校、中学校2校とするのか、予測も含めて、一定の数値を根拠として議論を進めてきたつもりですし、今後もその方向で進めたいと考えています。
E 委員	当初、校舎の老朽化の問題からこの委員会の話に繋がっていると思いますが、いつまでを想定するのか、具体的な期間の設定はありますか。
安井委員長	あくまで私たちの検討委員会は、現状の小学校3校、中学校2校とするか、あるいは統廃合も含めて検討するかを踏まえた答申を行うことが目的です。 その後、具体的な計画を立てるための別の委員会が設置されるこ

	とになります。 小学校3校、中学校2校とするか、2小1中とするか、また、人口減少を考慮すると増やすことは難しいと思いますが、ここが一番重要なポイントです。理論的かつ数値的なデータを基に答申を出す必要があるため、当委員会では、このような議論を行っています。
F 委員	いろいろな話を聞きながら、小学校や中学校の先生の意見や保護者の思いを考慮しつつ、年々子どもたちが減っていく中で、どうすれば一人ひとりに手厚く関わられるかを考えています。 斑鳩町の現状として、小学校3校、中学校2校とするか、統廃合も含めて検討するのかを見極める必要があると思いました。 また、保護者の方々や子どもたちにとって最適な形を見つけるために、根拠を持ってしっかりと考えなければならないとも思います。 小学校や中学校は、公立幼稚園の子ども、私たちが育ててきた子どもたちが直接関わるため、慎重に考慮する必要があると思います。 話が少し変わりますが、資料10にある木の建物がとても魅力的で、こういう木の建物になったらいいなと思いましたが、コストや扱いの難しさも聞いているため、いろんな意見を聞きながら、最適な形を見つけたいと思います。
安井委員長	ここまでの議論で、検討委員会のメインである方針決定に向けたところに入ったと感じております。ここままで何かご意見ありますでしょうか。
G 委員	本検討委員会で議論した数値は、現場で感じる数値とは違っており、新しい視点であったと思います。
H 委員	教育施設について現状維持という結論を出すのは、県の状況においては難しいと思われますが、現状維持との結論に至るのではないかと思います。その中で、斑鳩町としての特色や、教育に対する要望をしっかりと根拠付けしないと、現状維持という結論は行政的にも財政的にも受け入れられにくいと思います。 また、今日の時点でその方向性を出すことも厳しいと考えており

	ます。
安井委員長	今日の時点では、方向性を出す一步手前の段階になります。本日の議論を踏まえ、原案を作成したいと思います。
H委員	財政的な部分などを除いて、現場の意見や町民の方のアンケートを踏まえた方針となったということは、よいと思われます。 その後、様々なやり取りや権利関係も出てくると思います。
安井委員長	例えば、小学校3校、中学校2校で現状維持となった場合、地域の風土や斑鳩町の歴史を考えて検討しても、予算としてはつきにくいと考えられますか。
H委員	おそらくハード整備に関して、数十億円程度かかると思います。 明らかに人口が減っていく中で、適正規模について考えると、今言っていた学級数かもしれませんが、40年後に人のいない小学校ができてしまうという結論に至る可能性もあります。 そうすると、今の結論が将来に大きく影響してくるので、教育現場や町民の方々も納得できる結論を40年後に得るためには、慎重に考えなければならないと思います。
安井委員長	私たちが将来を考えると、40年後というのは想像しにくいです。 現在、斑鳩町の小中学校は大変老朽化しており、50年を過ぎているものもあります。少子化という問題もありますが、教育体制がどうなるかは予測が付きません。 そのため、40年後を見据えるよりも、まずは20年間の計画を立てることが重要だと思います。 少子化が急激に進むわけではないので、統廃合よりも現状の児童数を考慮した改修が現実的ではないでしょうか。 新築するよりも、20年後を見据えた改修の方向が妥当だと思います。

森下副委員長	まず、小学校3校、中学校2校とするかどうかということがあります。 将来の展望を考えたとき、簡単には予測することができないこともあり、そのため、条件を付けて20年、40年を展望し、まとめていくことになるのではないかと思います。 また、大規模災害時の学校施設の役割や、建て替えではなく大規模改修という選択をするのかどうか検討する必要があると思います。 スケジュールとしては、答申が出た後に基本構想や基本計画を策定し、基本設計や実施設計に移行することになるのではないかと思いますので、今すぐ対応を進めても、実現には時間がかかると思います。 この検討委員会では、どういう方針で、どの程度まで見据えて改修を進めるか、また建て替えも視野に入れて議論を進めていくのが重要となると思われます。
安井委員長	老朽化と少子化、そして教育体制について話がありましたが、少子化の観点から資料4の8ページと9ページをご覧ください。 資料4の8ページと9ページには、令和47年、つまり40年後の学級数予測が記載されています。 これを見ると、小学校のクラス数が減少し、中学校も同様にクラス数が減少することが予測されています。 改修の目標は概ね20年間、使用することになります。 その意味で令和27年の予測を見てみると、斑鳩町の小学校では一部の学年でクラス数が2に減少するものの、他の学年では3クラスを維持しています。 中学校についても、令和27年の時点ではクラス数が維持されていることがわかります。 このような状況を踏まえると、統廃合を検討する必要もあるかもしれませんが、改修を前提とし20年後の令和27年の予測を基に計画を立てることが現実的かと思われます。 また、資料7の24ページをご覧ください。アンケートの項目を見てみると、「現在の学校数・規模を前提に老朽化の度合いに応じて

事務局	順次改修を行いながら将来的に建て替える」という意見が３２％、「将来の児童生徒数を踏まえ、学校の統廃合も視野に検討し、検討結果に基づいて建て替える」という意見が２５％となっています。 将来の児童生徒数を踏まえた場合、令和２７年の予測では大きな統廃合を必要とする数値ではないと考えています。 アンケートの中で統廃合という文言が含まれているのはこの選択肢１つだけですが、「現在の学校数規模を前提に老朽化の度合いに応じて順次改修していく」という意見が最も多い回答です。 また、資料７の４３ページをご覧ください。 町民、保護者、教職員を母数として考えた場合のパーセンテージは、「現在の学校数を維持するために」が１１．９％、「現在の学校数規模を前提に」が１２．６％「現在の学校数規模を前提に、老朽化の度合いに応じて順次改修を行う」が３２．８％、「現在の学校数を維持する」が１６．９％、「将来の児童生徒数を踏まえ、学校の統廃合も視野に検討し、検討結果に基づいて建て替える」が２４．７％、「その他」が１％となっております。 この中で最も多いのは、「現在の学校数規模を前提に、老朽化の度合いに応じて順次改修を行う」という意見で３２．８％です。 次に多いのが、「将来の児童生徒数を踏まえて学校の統廃合も視野に検討し、検討結果に基づいて建て替える」という意見で２４．７％です。 将来の児童・生徒数については、先ほどの社人研の令和２７年度の予測を見ると、現在のクラス数は３クラスとなっているため、統廃合を必要とする数値ではないと考えています。 次の委員会では、今日の議論を踏まえて、現在の小学校と中学校の体制を維持する形を基本に考え、皆さんの意見を総合的に整理していきたいと思います。副委員長や事務局と共に原案を作成し、それを基に議論を進めていければと思います。 それでは、（５）今後のスケジュールについて、事務局から説明をお願いします 先ほど委員長からお話がありました通り、次回の検討委員会では、委員長、副委員長、事務局で作成した答申に向けた案を皆様にお示
-----	--

安井委員長	しし、様々なご意見をいただきたいと考えております。 次回、第5回目の委員会の日程ですが、5月下旬頃を目途に資料を作成し、日程のご案内をさせていただきます。 いつも通り1時からの開催を予定しておりますので、ご多忙のところ恐縮ですが、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。以上、簡単ではございますが、今後のスケジュールについてのご説明とさせていただきます。 適正規模・適正配置という非常に難しいテーマについて議論しましたが、次回は1つの答申案を基に議論する予定になります。 他の市町村では、こうした議論はほとんど終わっているところが多いため、ホームページなどを見ると、様々な地域の議事録が出てきます。 斑鳩町は20年後、30年後でも児童生徒数が懸念されているほど大きく減らないと予測されています。他の多くの市町村では、児童生徒数が減少する予測のため、統廃合をせざるを得ない状況になっています。その意味で、斑鳩町は少し特殊な状況にあります。 私個人的には、斑鳩町の風土を活かして、子どもたちが自分から行きたいと思うような学校になればいいなと思っています。 本日はどうもありがとうございました。 事務局からは、何かありますでしょうか。
事務局	事務局の方から前回の会議でも申し上げましたが、本検討委員会では各学校のPTA会長様に委員としてご就任いただいております。 今後、改選の時期を迎えるにあたり、新しい会長様が委員にご就任されるのか、現会長様が継続されるのか、それぞれのPTAの考え方によると思いますので、その結果を事務局までお知らせいただければと思います。できる限り皆様に継続していただけると幸いです。よろしくお願い申し上げます。事務局からは以上です。
安井委員長	それでは、これで第4回の検討委員会を閉会致します。

※会議資料添付

上記のとおり議事録を作成し、相違ないことを証明する。

令和 年 月 日

議長等

署名人

署名人
